



平和資料館 草の家 だより

No.105

2009年12月24日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyoku.ne.jp http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori

安保条約解消の平和の風を起こそう —2010年は安保改定50年—

平和資料館・草の家 館長 岡村正弘

1959年4月、私は高知市立市民病院にレントゲン技師として就職しました。「若い者がやれ」とすぐに推薦され、組合の役員になりました。ノンポリで右も左も解らない私は、安保改定反対の大闘争に巻き込まれました。集会、デモが繰り返しあり、当時のデモはフランスデモといって、電車通りいっばいに手をつないで行進しました。電車は止まって、乗客は手を振って応援していました。大丸前では激しくジグザグデモもしました。

全国統一行動でストライキの指令がきました。病院といえども除外されず決行されました。「スト決行中」のビラを貼る、院長先生がはぎに来る、居なくなったら又貼るなどしましたが、今思えば陰悪な雰囲気はなく、みんなが応援してくれていました。安保条約とは何か、改定するとどうなるかなど学習会も盛んでしたが、激しい運動のわりにはのんびりだったように思います。あれから50年。

去る12月5日、沖縄で、「いま沖縄の米軍基地問題を考える—普天間基地の閉鎖・撤去を求めて—」という基地問題シンポジウムがありました。パネリストの志位和夫さんは、「老朽化した普天間基地に代わって、国民の税金で最新鋭の巨大基地をつくり、米軍が未来永劫居座り続ける。こんなものを、戦後64年間、基地の重圧に苦しんできた沖縄県民がどうして受け入れられるのでしょうか。では、どう解決の道を開くのか。『移転先』を探すという今の政府のやり方では解決できません。新政権の後退と動揺の

根本にある『海兵隊は抑止力として必要』『日米安保があるから』という議論を乗り越える必要があります。海兵隊は『日本の平和と安全』のための『抑止力』ではありません。世界への『殴りこみ』部隊です。基地提供を拒否するのが世界平和への貢献です。安保条約の解消は基地問題を解決する根本的な保障です」と述べています。

今、世界は大きく変わっています。ソ連崩壊後、米軍の海外駐留は世界的には削減・縮小しています。平和の地域共同体がアジア、中南米で広がっています。日米関係を、戦中の敵対、戦後の従属から抜け出し、安保解消で友好の時代へと発展させる転機の年にしようではありませんか。



11 / 23
左から岡村館長、戸田郁子さん、猪野睦さん、事務局の西森遼子さん、草の家の前で